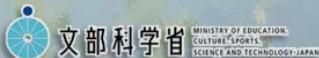


日本の気候変動2020

— 大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書 —

文部科学省 気象庁



日本の気候変動の「これまで」と「これから」をまとめた一冊

自治体の緩和・適応策や影響評価をご利用いただけるよう

日本とその周辺の

温室効果ガス、気温、降水量、海面水位、水温 などの

これまでの観測事実 (現在どうなっているのか)

将来の予測

(この先どうなるのか)

の最新の知見を解説

2つのシナリオに基づく
将来予測結果の対比が可能に

2°C上昇シナリオ (RCP2.6)

(パリ協定の 2 °C目標が達成された場合)

4°C上昇シナリオ (RCP8.5)

(追加的な緩和策を行わない場合)

○気象庁HPでご覧いただけます
<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>

日本の気候変動2020

検索

これまでの観測事実

日本の近年の気候は...

年平均気温が100年あたり 約1.24°C 上昇



猛暑日や熱帯夜は増加し、
冬日は減少する傾向がみられる。

降雪・積雪は減少



年最深積雪に
減少傾向がみられる。



雨の降り方が極端化

大雨、短時間強雨の頻度は増加し
雨の降る日は減っている。



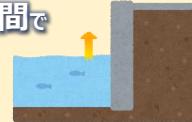
台風の発生数や強度の変化には
はっきりした傾向はみられない

海面水温が100年あたり 約1.14°C 上昇



温まりやすい陸地に近いことや暖流の影響で、
世界平均よりも上昇率が大きい。

沿岸の海面水位が100年間で
約0.16 m 上昇



オホーツク海の
年最大海氷面積は減少



オホーツク海沿岸では1980年以降
流氷量が著しく減少。

日本南方や沖縄周辺においても
世界平均と同程度の速度で
海洋酸性化が進行



将来の予測

20世紀末と比べ、21世紀末の日本は...

年平均気温が 約1.4°C / 約4.5°C 上昇



猛暑日や熱帯夜はますます増加し、
冬日は減少する。

降雪・積雪は減少



雪ではなく雨が降る。
ただし大雪のリスクが
低下するとは限らない。



激しい雨が増える

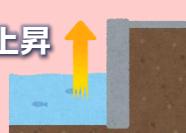
日降水量の年最大値は
約12%（約15 mm）/ 約27%（約33 mm）増加
50 mm/h以上の雨の頻度は 約1.6倍/約2.3倍に増加

海面水温が 約1.14°C / 約3.58°C 上昇



温まりやすい陸地に近いことや暖流の影響で、
予測される上昇量は世界平均よりも大きい。

沿岸の海面水位が
約0.39 m / 約0.71 m 上昇



3月のオホーツク海海氷面積は
約28% / 約70% 減少



【参考】4°C上昇シナリオ（RCP8.5）では、
21世紀半ばには夏季に北極海の海氷が
ほとんど融解すると予測されている。



強い台風の割合が増加
台風に伴う雨と風は強まる

日本南方や沖縄周辺においても
世界平均と同程度の速度で
海洋酸性化がさらに進行

